

吃音

人前に出ると、うまくしゃべれないとしたら……

吃音とは……

基本的には、繰り返し・引き伸ばし・言葉のつまりなどでスムーズに話が出来ない状態になることです。以前は“どもり”という言葉で表現されていましたが、現在ではこの言葉は使われなくなりました。原因は確かなことはまだはっきりとは分かっていません。どنگりを食べて吃音になるとか真似をすると吃音になるとかの話がありますが、これらも根拠のない話だといわれています。吃音の出始めは2～4歳に多く、そのほとんどが7歳までに治ります。吃音者は日本人だけではなく、全世界各国にいますし、全人口の1%前後で男女比は3～10対1です。吃音が出て自然に症状がなくなるのも40～45%あります。

症状

言語症状

吃音はいつでもどこでも同じように出るとは限りません。独り言やつぶやきのように聞き手がいないければ吃音はほとんどおこりません。同じ場面であっても吃音が出たり出なかったり、同じ言葉でも必ずしも次の吃音症状が出ることは限りません。出ないだろうと思っていたら吃音が出てしまうなど、改めて吃音恐怖を感じることもあるのです。

- 1) 繰り返し(連発): 発頭音の繰り返し — 「トトトトトンボ」
- 2) 引き伸ばし(伸発): 発頭音を引き伸ばす — 「トーンボ」
- 3) つまり(難発): 発頭音が詰まる — 「…………トトトトンボ」

随伴症状

身体症状とも言います。吃音から逃れたい、隠したい、出てきそうな恐れ、心配や不安、上手に話せるコツとして身につけた動作、偶然行った行動が条件づけられ強化されたものなどがあります。

- 1) 舌打ち 2) まばたき 3) 目を閉じる 4) 手足を振る 5) 首を盛んに動かす 6) 足で床を蹴る 7) 発汗 8) 赤面 9) 蒼白 10) 顔面こわばり 11) 口をねじる 12) あえぎ

接し方・対応策

吃音には現在まで様々なリハビリテーション(治療法)が試みられてきましたが、『これで全て直る』
と言うような決め手となる手法はありません。その子の症状や個性・年齢や環境に合わせた吃音を
回避する対応策が必要になってきます。

基本姿勢は 本人も周囲も話し方ではなく話の内容に集中するようにする
楽な気持ちで話せる環境づくりをこころがける
吃音と『うまく付き合っていく』という意識をもつ

と、言うことです。

